2024年08月21日　妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会　資料

「たまひよ妊娠・出産白書2024」より「日本の出産・育児環境」に対する父親・母親の認識とその声

㈱ベネッセコーポレーション
たまひよメディア事業部
たまひよブランド広報　久保田悠佑子

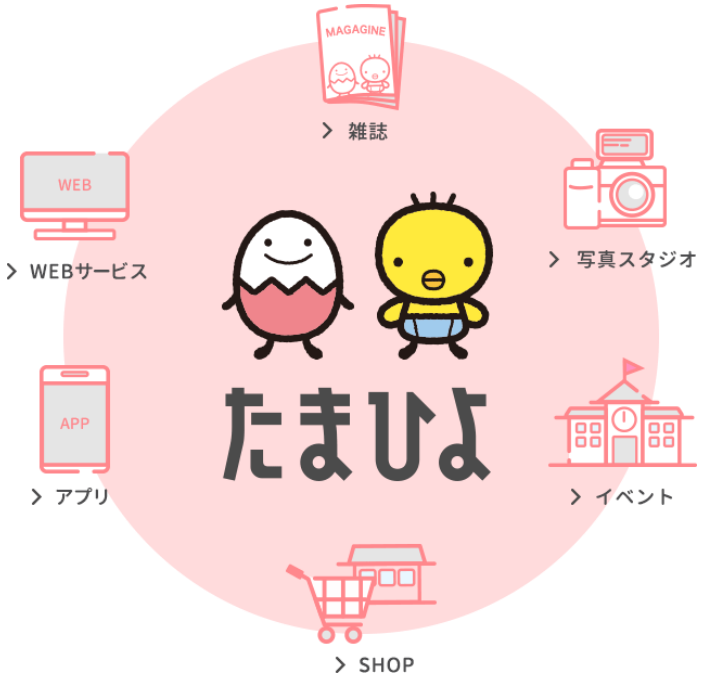
※本資料内のデータを使用される場合は、㈱ベネッセコーポレーションたまひよメディア事業部までご一報いただけますようお願いいたします。

© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

「たまひよ」自己紹介

子育てをみんなで。30年先も
たまひよ 30th Anniversary

1993年雑誌『たまごクラブ』『ひよこクラブ』創刊。
2023年に30周年を迎えました。
雑誌・アプリを中心に妊娠・育児事業を各種展開。



© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

参考

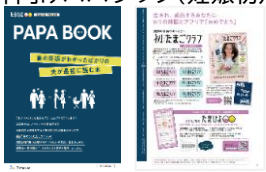
「たまひよ」ブランドはメディア外にも多くの接点をもっています

たまひよ会員・読者モデル・マイクロインフルエンサー組織、全国の分娩院をはじめとする医療現場、官公庁、クリニックとのつながり、写真スタジオ、eコマース事業等を幅広く運営。メディア事業のみならず、様々なステークホルダー・社会との接点をもっています。

たまひよブランド

自治体との接点

自治体向けパパブック（妊娠初期向け）配布



*複数自治体に採択頂く

全国産婦人科との接点

全国の約1,700分娩院との接点
ベネッセおやこの広場（福田病院）
パパと読むたまごクラブ（FP）
産院ギフトカタログ事業
退院ギフト事業

インフルエンサー

60万人を超えるたまひよ会員の背後の潜在顧客

たまひよ会員になると「イイコト」いっぱい!

公式 たまひよ インスタグラマー

CDP・デジタルマーケティング

1stPartydata
登録情報をもとに外部サイトからのデジタル獲得施策を実施。

医師・助産師・管理栄養士 有識者ネットワーク

妊活不妊治療領域医師・培養士・産婦人科医・小児科医・助産師
管理栄養士・保健師・保育士・教諭他とのつながりにより、
クリニック・大学病院、図書館、児童館等からも新規顧客流入。

子育て政策関連省庁との取組み

こども家庭庁　厚生労働省　エコチル調査

*複数官公庁の広報支援のメディアパートナーとして採択頂いている
*複数省庁の専門家会議にエキスパートが委員として参加

© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

「たまひよ妊娠・出産白書」とは？

- ✓ 2021年にスタートし、2024年で 4回目。2025年3月に最新版リリース予定

- ✓ 生後0カ月～1才6カ月の子どもを持つ父親・母親2000人への調査
※第2回（2022年）より父親も調査対象に追加

- ✓ スタート時はコロナ感染拡大により立ち会い出産や両親学級ができない状況をふまえ、妊産婦の実態を調査し世の中に発信する目的

- ✓ その後も、働き方・健康・ジェンダーの意識変化、男性育休など妊娠育児に関連した法制度整備など、急速なスピードで変化する社会状況や深刻な少子化などを受け、父親母親の“現在（いま）”を世の中に発信することが必要であるとし継続

「たまひよ妊娠・出産白書2024」調査概要
・調査期間：2023年9月15日～22日
・調査方法：WEB調査
・調査対象者全国の生後０カ月～1才６カ月の子どもをもつ母親・父親（『たまごクラブ』『ひよこクラブ』購読経験者）
・有効回答数2,062人（母親1,649人・父親413人）

© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

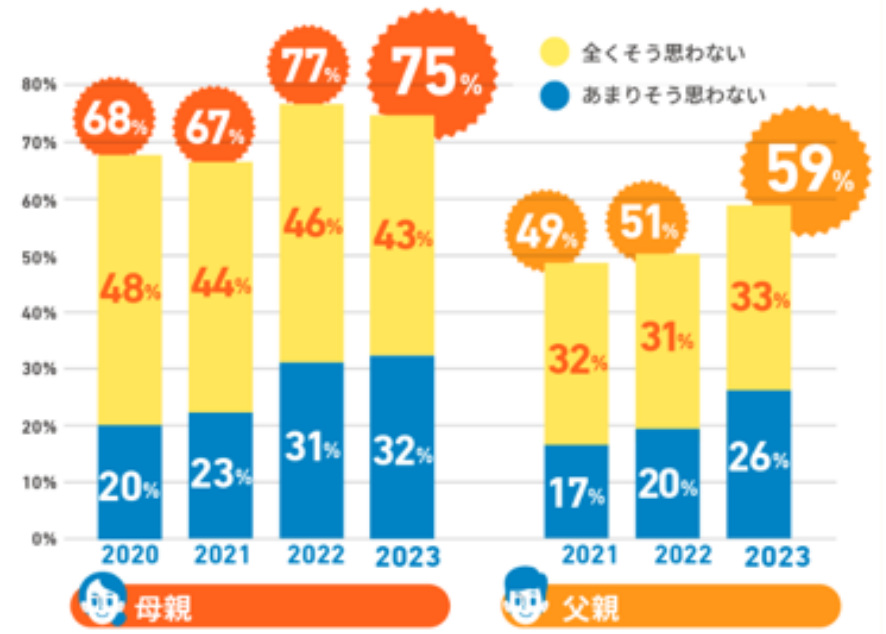
Q. 日本の社会は、子どもを産み育てやすい社会だと思いますか？

© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

「たまひよ妊娠・出産白書2024」より抜粋

A.「あまり＋全くそう思わない」
母親75.0%（2023年は76.9%）
父親59.1%（2023年は50.6%）

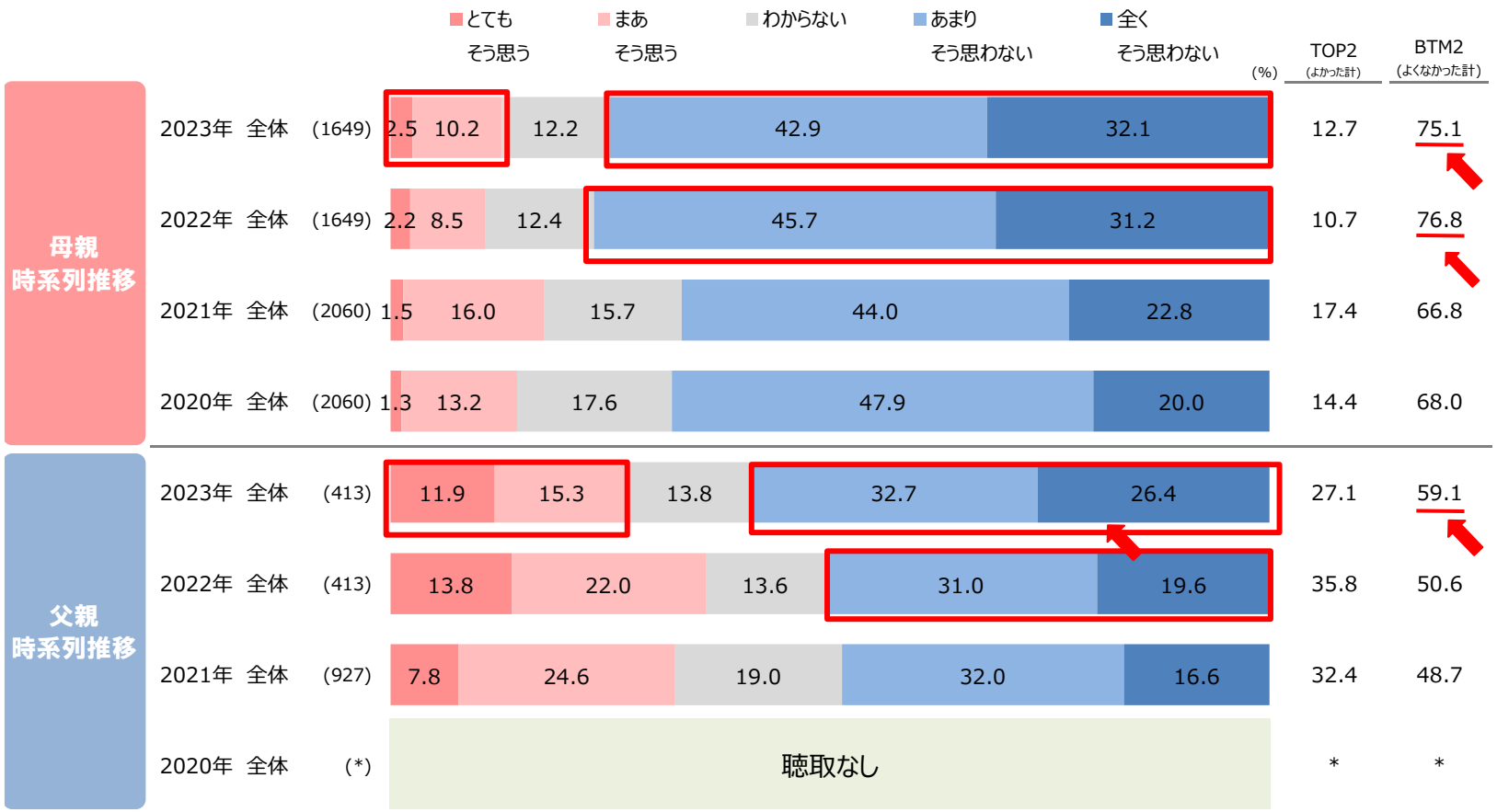
Q. 日本の社会は、子どもを産み育てやすい社会だと思いますか？



© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

●母親は、前年と変わらず「出産・育児がしやすい社会」と思う割合は1割程度で推移。
「あまり＋全くそう思わない」が2022年から7割を超える。
●父親は、「とても＋まあそう思う」が母親よりは多いものの前年より減少し、
「あまり＋全くそう思わない」が増加している。

Q. 日本の社会は、子どもを産み育てやすい社会だと思いますか？



© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

Q.日本社会において出産・育児がしやすいと思わない理由

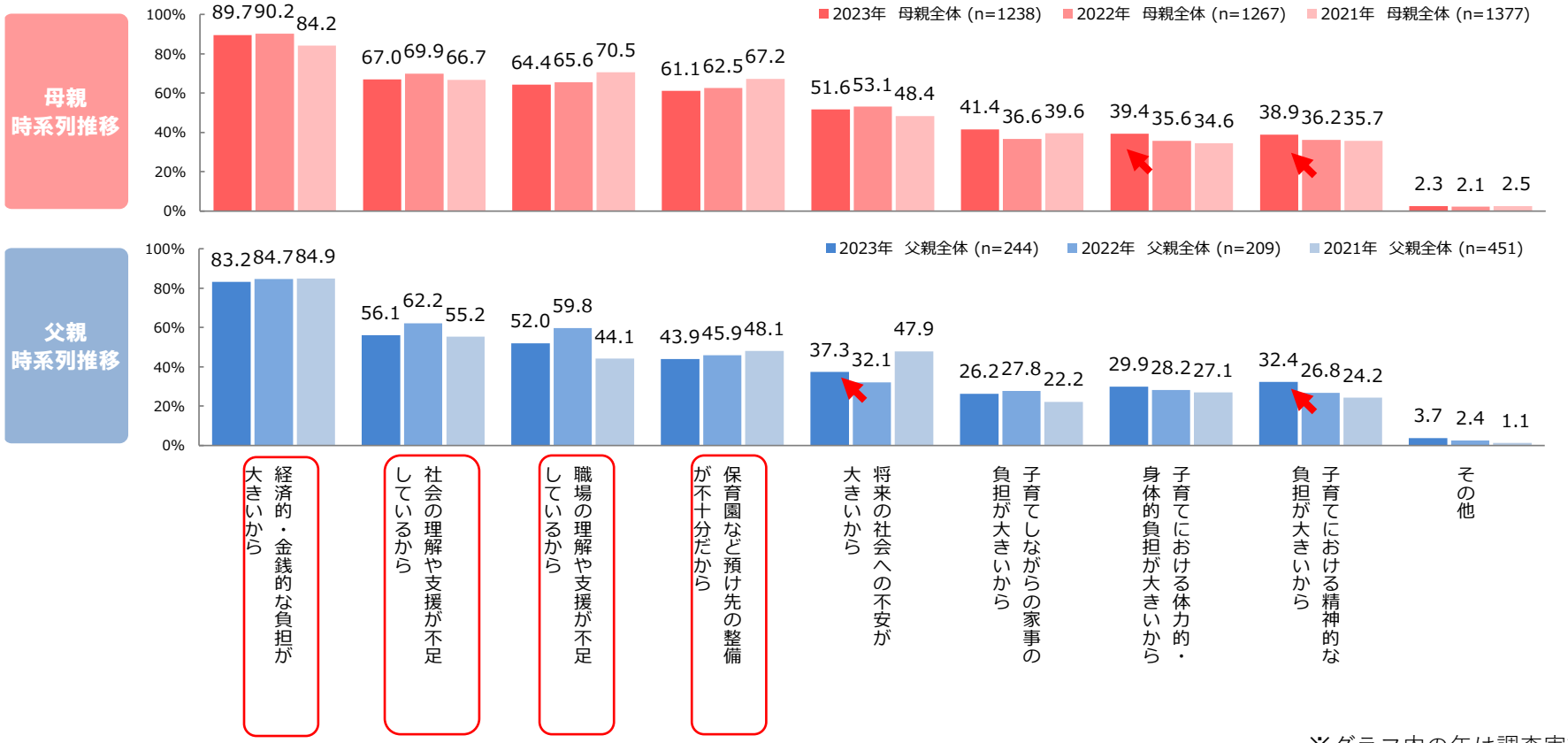
© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

A.母親・父親ともにトップは「経済的・金銭的な負担が大きい」

© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

- 母親・父親ともにトップは「経済的・金銭的な負担が大きいから」で8-9割を占める。
- 前年と比較すると、母親は「子育てしながらの家事の負担が大きいから」、「子育てにおける体力的・身体的負担が大きいから」「子育てにおける精神的負担が大きいから」が増加、父親では「将来の社会への不安が大きいから」 「子育てにおける精神的負担が大きいから」が理由として増加している。

Q. 前の質問で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」とお答えになった理由としてあてはまるものをいくつでもお選びください。



※グラフ内の年は調査実施時期

© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

「日本の社会は、子どもを産み育てやすい社会だと思わない」
母親75.0% 、父親59.1%であり、2022年から増加傾向
理由は「経済的・金銭的な負担が大きい」が8-9割を占める

- 子育て全般に関しての、**経済的・金銭的負担の不安**
- 出産費用だけではなく、妊娠時の健診から産後ケア、その後の医療、保育、教育と関わってくる一連の経済的負担に関してである
- 出産費用等の負担軽減は、父親母親にとって非常に求められる傾向

© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

参考

たまひよユーザー調査（2023年10月実施）n=2062

2023年に妊娠・育児に関連して、印象に残ったニュース・キーワードを教えてください。（複数回答）

	男性	n413
1位	**出産一時金引き上げ**	**169**
2位	年間出生数80万人割れ	142
3位	異次元の少子化対策	129
4位	男性育休・産後パパ育休	91
5位	不妊治療の保険適用化	90

女性	n1649
出産一時金引き上げ	**1004**
異次元の少子化対策	581
年間出生数80万人割れ	535
不妊治療の保険適用化	490
男性育休・産後パパ育休	476

© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

参考

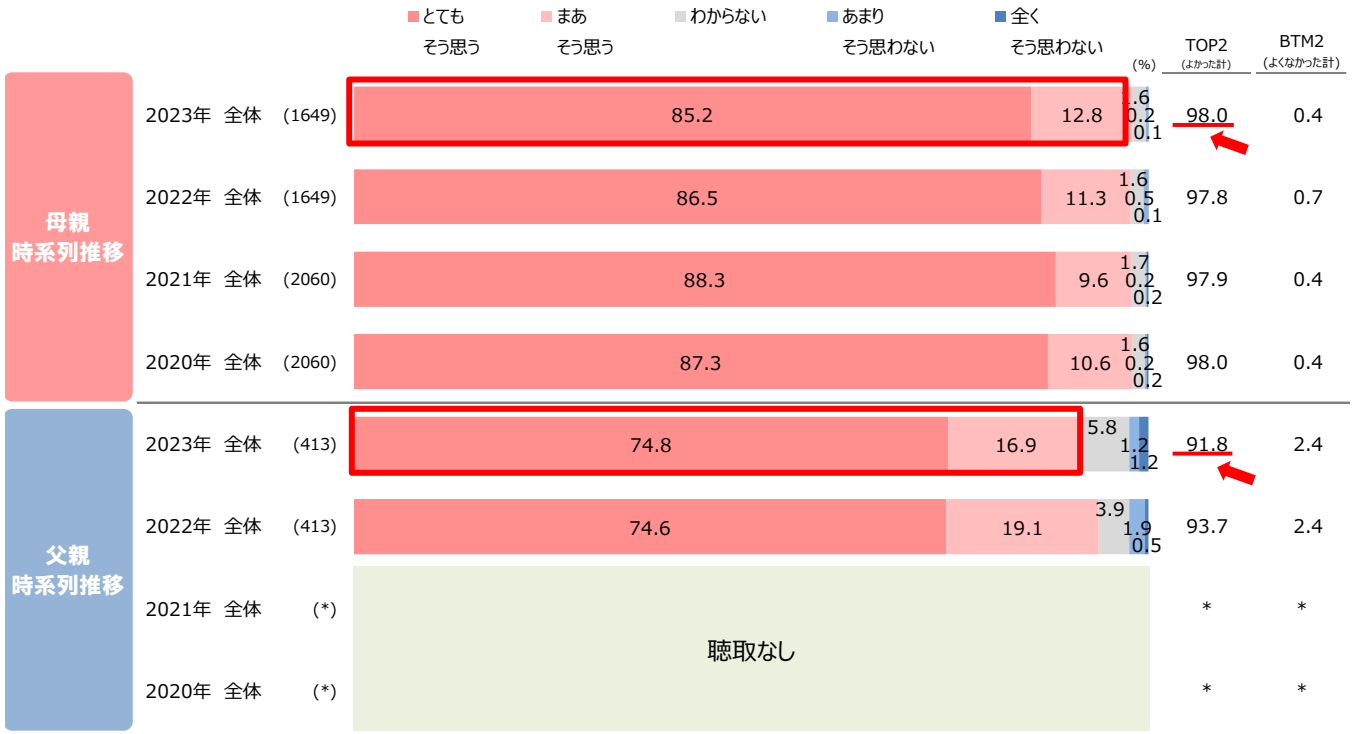
「たまひよ妊娠・出産白書2024」より抜粋

ほぼ全員の父親・母親が「子どもを産んでよかった」

子どもを産んだことへの感想（子どもを産んでよかったかどうか）

- 子どもを産んだことへの感想は、母親・父親ともにほぼ全員が「産んでよかった」と回答している。
- なお、父親はTOP2では母親と同様に9割を超えるが、TOP1（とてもそう思う）で7.5割程度となっている。

Q. 子どもを産んでよかったと思いますか？



© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

参考

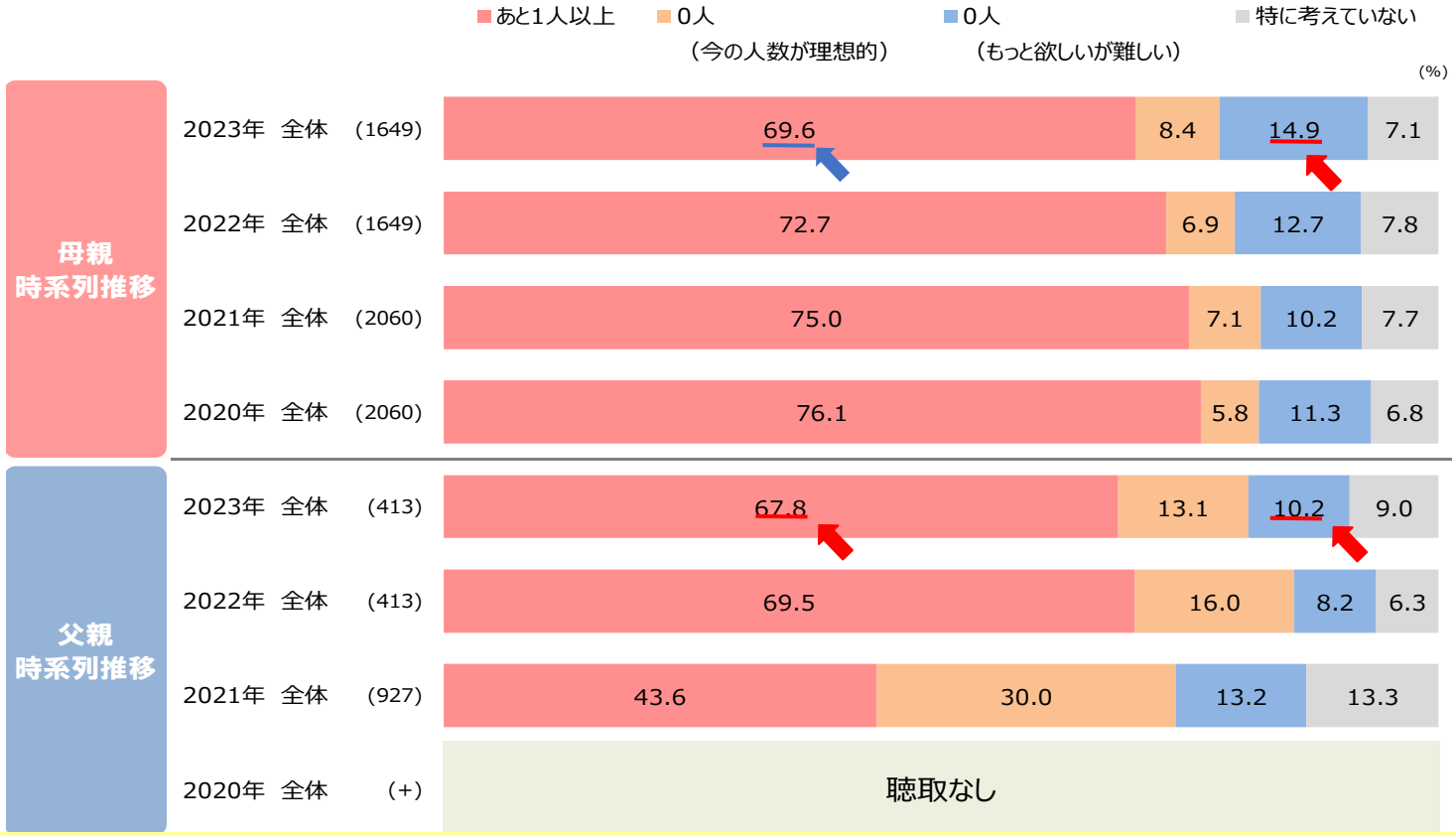
「たまひよ妊娠・出産白書2024」より抜粋

「子どもをあと1人以上欲しい」と思う父親・母親は約7割だが低下傾向

今後の家族計画

- 子どもを「あと１人以上」欲しいと思う母親は全体で約7割。2020年時点からの推移でみると5pt以上減少しており、低下傾向が続いている。一方、「0人（もっと欲しいが難しい）」が増加している。
- 父親も「あと1人以上」は前年からわずかに低下し、「0人（もっと欲しいが難しい）」が微増している。

Q. 今後の家族計画についてお伺いします。あと何人、こどもがほしいとお考えですか？あてはまるものをお選びください。



© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

参考

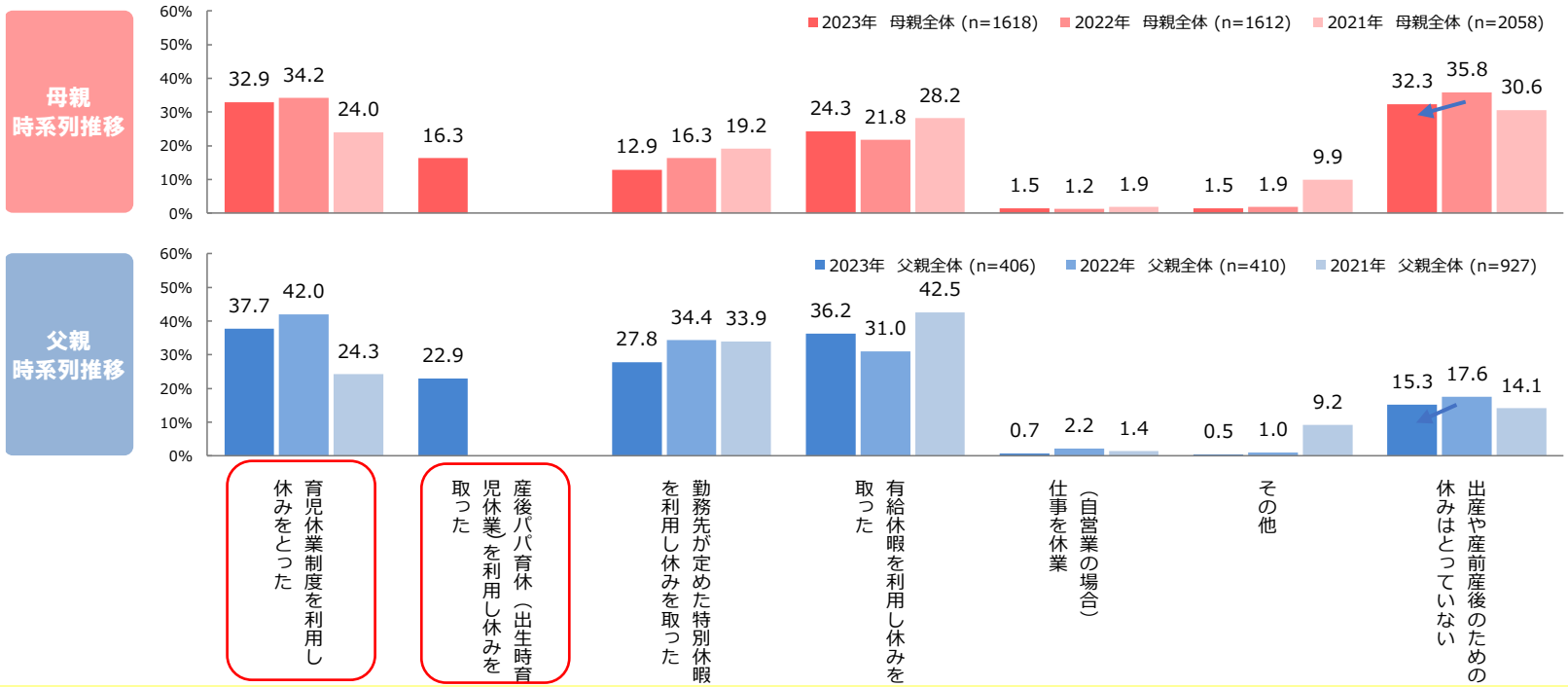
「たまひよ妊娠・出産白書2024」より抜粋

法制度変更影響から、父親の育休利用は大幅増加傾向

出産・育児にあたっての、父親の休暇取得状況

- 母親・父親ともに、配偶者（父親ご自身）が「育児休業制度を利用し休みをとった」が最も高い。2022年10月に新設された「産後パパ育休」利用者も含めると、制度利用による休暇取得者の増加は顕著。
- 「出産や産前産後のための休みはとっていてない」人は前年から減少。

Q. 女性の方にお伺いします。あなたの配偶者・パートナーは出産・育児にあたり、お休みをとりましたか？
男性の方にお伺いします。あなたは出産・育児にあたり、お休みをとりましたか？



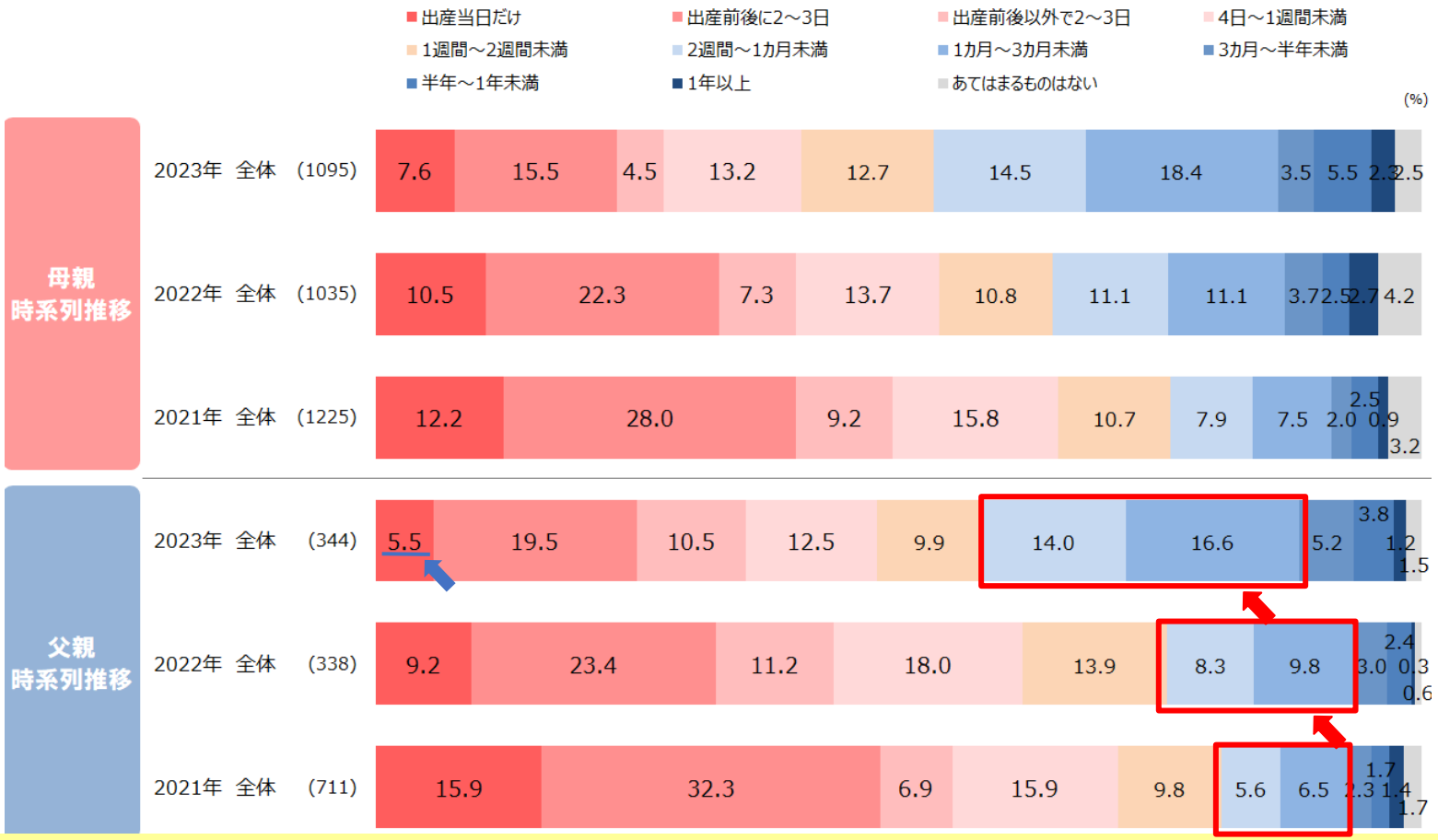
© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

参考

「たまひよ妊娠・出産白書2024」より抜粋

・出産や産前産後のための休みはとっていてない」人は前年から減少

・配偶者・パートナー（父親ご自身）の出産・育児にあたり休暇を取得した日数は、「出産当日」「出産前後に2～3日」は減少し「1カ月～3ヶ月未満」が大幅に増加。「2週間～1カ月未満」「1カ月～3カ月未満」が3年連続で増加しており、育休休暇は徐々に浸透傾向にあることがうかがえる。



© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

参考

「たまひよ妊娠・出産白書2024」より抜粋

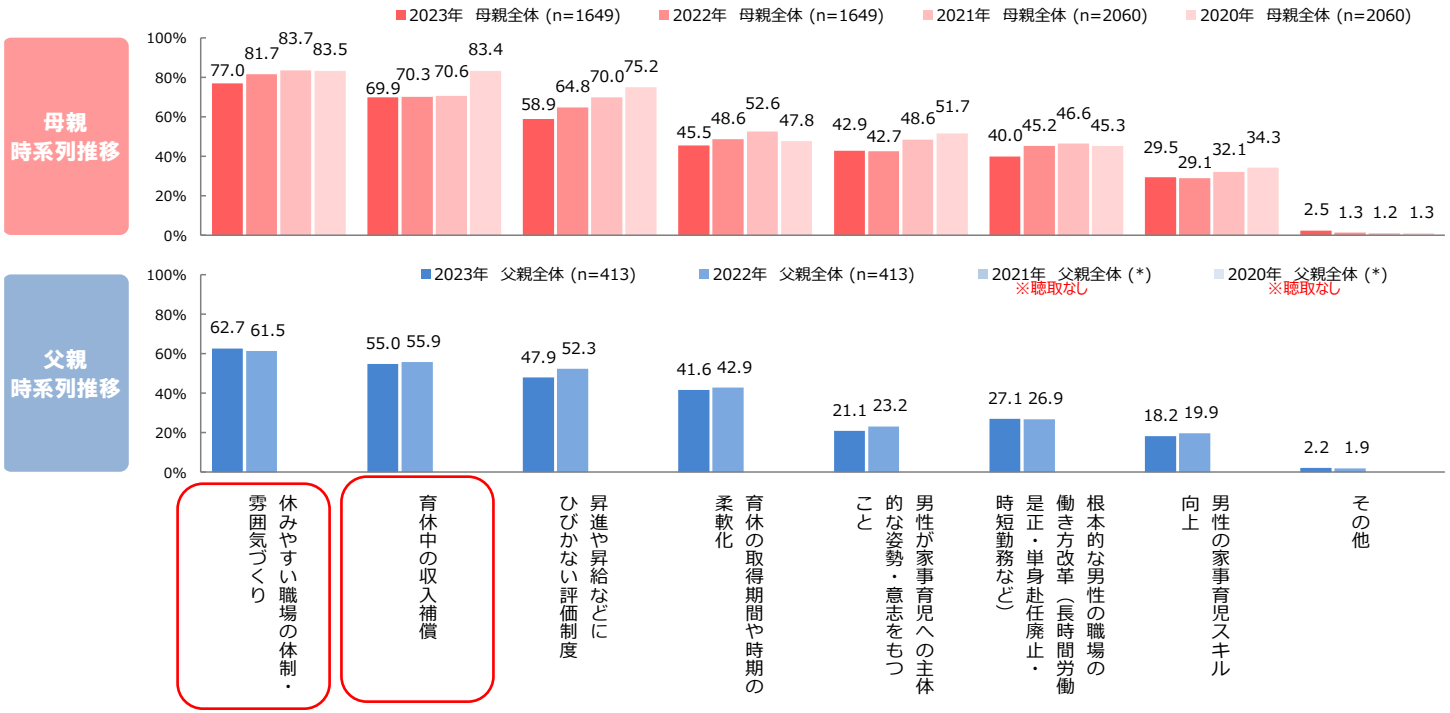
より男性育休が普及するためには「休みやすい職場の体制・雰囲気づくり」「育休中の収入補填」が必要

父親の育児休業制度利用促進への必要条件／要件

● 父親の育児休業制度利用促進への必要条件／要件として、「休みやすい職場の体制・雰囲気づくり」が最も高く、「育休中の収入補填」「昇進や昇給などにひびかない評価制度」が続く。

Q. 男性の育児休業制度利用促進にあたり必要だと思う条件や要件をいくつでもお選びください。

※2020年の質問文「Q.男性の育児休暇の義務化にあたり、必要だと思う条件や要件をいくつでもお選びください。」



© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

参考

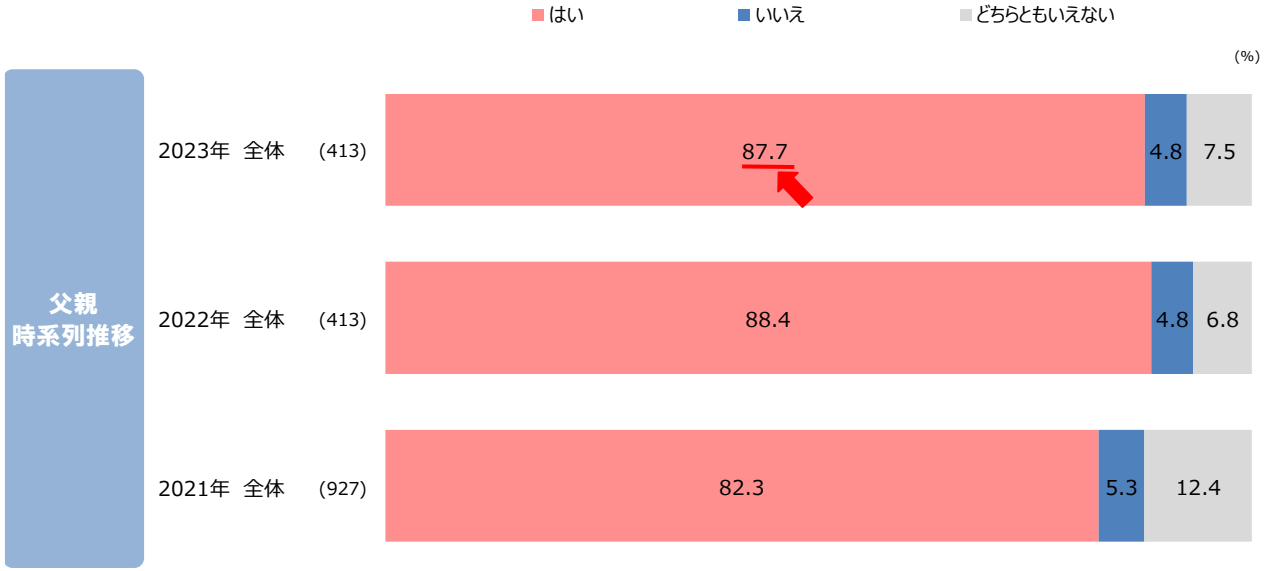
「たまひよ妊娠・出産白書2024 」より抜粋

もっと育児に関わりたい男性は9割以上

父親の育児参加意向

●父親ご自身の育児参加意向は9割程度と多数を占めており、前年と同程度。

Q.あなたは今以上に、育児にかかわりたいと思いますか？



© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.

子育てに関して「経済的・金銭的負担」
「将来への不安」を感じている父親・母親の声を
本日お伝えさせていただきました。

「日本は出産・育児をしにくい」と感じる父親・母親が
過半数を超える、という厳しい状況下ですが、
その一方で育休関連の法整備もあり父親の出産・子育て
に関する変化が目覚ましいことや、
ほぼ全員の父親・母親が「子どもを産んでよかった」と
答えるなど、ポジティブなことも多いと考えます。

「生まれてくる人」と
それを「育てる人」が祝福される社会へ。

「たまひよ」も貢献していきたく、
引き続きよろしくお願いいたします。

© Benesse Corporation. / All Rights Reserved.